

# 東北公益文科大学 第2期 吉村プラン

平成29年度～平成31年度

～ 庄内から日本の教育を変える大学づくり～



2017年4月1日





東北公益文科大学  
学長 吉村 昇

国際化や社会貢献をキーワードに推進してきたアクションプラン「第1期吉村プラン」(2014～2016年度)がこの3月で終了し、2017(平成29)年4月からは「第2期吉村プラン」を開始します。公益大の教育改革はいよいよ第2章の幕開けとなりました。

第1期吉村プランでは、皆さまのお陰で様々な成果を挙げることができました。大きな進歩としては、学部の学期を2学期制(セメスター制)から4学期制(クォーター制)に移行させ、中・長期留学がしやすい環境を整えました。結果として留学に挑戦する学生数が飛躍的に伸びています。また海外大学との学術交流協定も積極的に進め、現在キャンパスでは外国人留学生が生き生きと学ぶ姿が見られるようになりました。

本学は2017年4月から「第2期吉村プラン～庄内から日本の教育を変える大学づくり～」(2017～2019年度)を実施します。2016(平成28)年度に採択された「大学教育再生加速プログラム(AP)」を中心に、公益大の教育力をさらに高めます。目指すのは能力の高い学生の力を伸ばし大きく飛躍させ、伸び悩む学生もしっかり底上げできる教育です。学生を社会人として一人前に成長させ、地域に必要とされる人材を育てます。

新たな取り組みとしては、激変する情報化社会に対応し、地域創生に貢献できる文理融合型の人材育成として、今までの「情報特別選抜」を新たに「メディア情報コース」に進化・発展させます。

新田理事長はじめ理事長補佐、理事、監事、教職員の皆さんと力を合わせ、魅力ある大学に発するための努力をしております。「第2期吉村プラン」の実行でさらに飛躍し、日本の高等教育の新たなモデルとなるような先進的な大学づくりを目指します。

2017年4月

**吉村 昇 (よしむら のぼる)**

1969(昭和44)年 秋田大学大学院電気工学専攻修士課程修了。75(昭和50)年 工学博士(名古屋大学)。95(平成7)年秋田大学鉱山学部長、98(平成10)年秋田大学工学資源学部長(初代)を歴任。08(平成20)年 国立大学法人秋田大学学長(2014年3月で任期満了)。2014(平成26)年4月 東北公益文科大学学長に就任。

<基本教育目標>

- 1 社会の変化に柔軟に対応できる教養と専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、「信頼」と「共生」を基本に公益の社会づくりに貢献できる人材を育成します。
- 2 地域の文化・福祉・経済の発展に貢献できる人材を育成します。
- 3 グローバル化社会に通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を育成します。
- 4 学長のリーダーシップの下、上記目標を達成するため柔軟な運営体制を構築します。

(第2期吉村プラン キーワード) **NEW**

- ・ 公益の学びを具現化した新たな教育で、質の保証を確立
- ・ 学生が自分の学びを実感できる教育の展開
- ・ 地域での実践教育の展開

(第2期吉村プランの主な取り組み) **NEW**

- 1 教育改革を加速し、学生が自分の学びを実感できる教育を展開します。
- 2 クォーター制を推進し、留学のさらなる促進と外国人留学生への対応充実に取り組みます。
- 3 新しい情報化社会に対応でき、地域創生に貢献できる文理融合型の人材養成に取り組みます。(酒田市産業振興寄附講座)
- 4 公益大まちなかサテライトを開設します。(酒田市コミュニケーションポータル整備基本計画)

# I 教育

## 1. 教育の重点分野

### (1) 卒業時における「教育の質保証」への取組を充実します(AP 事業の推進)

NEW

- ・ 卒業段階で学生がどれだけの力を身につけたかを客観的に評価する仕組みを構築し、評価の仕組みやその成果を社会に提示するための効果的な手法を開発します。(運営9と連携)
- ・ ラーニングコモンズを設置し、多様な能力の学生の質保証に取り組みます。
- ・ 学外の方々との協働による教育面での助言と評価の仕組みを構築します。

### (2) グローバル化教育への対応

国際教養コースをはじめ、他の科目でも英語で行う授業を導入します。

### (3) 公務員志向への対応

法律、経済、まちづくりなど、公務員の養成に資する科目を強化します。

### (4) 社会福祉士の養成

これからの社会で確実に必要とされる分野であり、社会福祉士の国家資格合格のための支援を強化します。

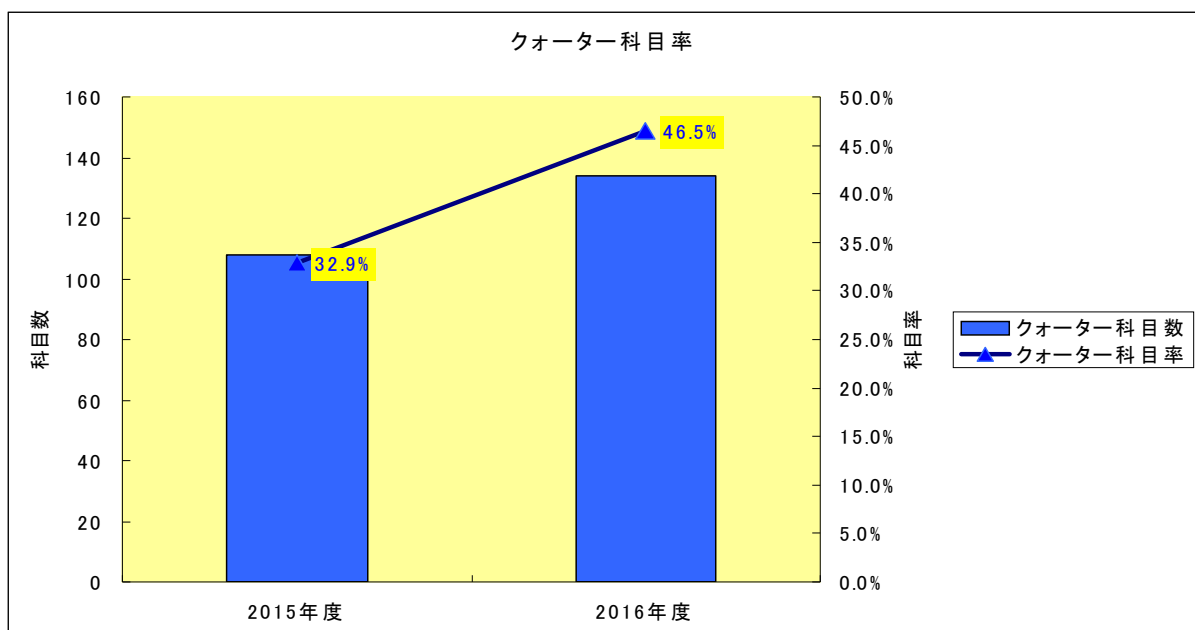
## 2. 学習者中心の大学に

### (1) 学年のセメスター制(2学期制)から「クォーター制(4学期制)」への移行を拡大します。

### (2) 学生からの意見を聞き、要望を取り入れた学生支援、教育カリキュラムを推進し、魅力ある教育科目を設けます。NEW

### (3) 学生研修寮を活用した、特色ある教育活動を展開します。NEW

### (4) アクティブラーニングに相応しい授業時間について検討します。NEW



### 3. 各センターの取り組み

#### ■ 学修支援（教育推進センター担当）

- ・ 学修相談、学修支援の充実を図ります。
- ・ リメディアル教育の充実(数学、国語)の充実を図ります。
- ・ 学生の能力に応じた多様なカリキュラムを設定します。
- ・ 1, 2年次からのインターンシップの取り組みを進めます。

#### ■ 学生支援（学生支援センター担当）

- ・ 学生相談、特別な配慮を必要とする学生の生活上、財政上、教育上の配慮、支援および問題を抱える学生に対する支援の充実を図ります。
- ・ クラブ・サークルをはじめとする学生の自主活動を支援します。
- ・ 学生研修寮(ドミトリー)を活用した学生教育を展開します。

#### ■ キャリア開発(キャリア開発センター担当)

- ・ キャリア形成支援及び就職に向けて的確な支援を行います。

#### ■ 地域との共創(地域共創センター担当)

- ・ 地域の皆さんと共に、学生の実務的な教育を推進します。

#### ■ 大学院

- ・ 修士課程カリキュラム(アジアビジネス人材養成講座を含む)をはじめ、大学院教育の更なる改革を進めます。
- ・ 学士・修士接続制度の推進により、学内からの進学制度を拡充します。
- ・ 科目等履修生や履修証明プログラムを推進し、教育内容の拡充を図ります。



平成 29(2017)年 4 月 1 日開設予定のラーニングcommonsでは、学生の自主的な学習活動支援を行う

## Ⅱ 研 究

大学における学術研究活動は、教育との両輪をなすものであります。そのため、各教員の個々の研究活動を支援し活性化を図るとともに、学際的・総合的なアプローチが必要な課題に対応できる研究体制を整えます。

### 1 教員の研究活動支援を行い、研究活動の活性化を推進します。

- (1) 外部研究資金の獲得のための支援体制を整え、科研費採択等の向上に努めます。
- (2) 研究を行いやすい環境の整備を図ります。  
(知財支援、女性研究者活動支援など)

### 2 機能的な研究体制の整備をします。

- (1) マルチプロジェクト研究機構の活動を推進します。 **NEW**
- (2) 産学官連携ポリシーに基づいて活動を展開します。 **NEW**

### 3 研究のグローバル化を推進します。

- (1) 国際的学術研究を推進します。



平成 28(2016)年 12 月 6 日、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科との履修交流協定締結式、及び記念シンポジウムより

## Ⅲ社会貢献（地域貢献）

庄内地域の知の拠点として、地域住民や行政と連携して地域課題の解決に挑戦するとともに、地域の人材育成に積極的に取り組みます。

### ■地域貢献（地域共創センター担当）

- ・ 学生の地域活動支援
- ・ COC 事業の継続事業の展開

- 1 地域と連携し、地域課題の整理と共有、調査・研究を行い、解決策の提言と活動等を行います。
- 2 地域志向のカリキュラムにより、地域での多彩なフィールドワークを展開し、地域課題の具体的解決に取り組みます。
- 3 コワーキングスペースを活用し、地域貢献、地域間の連携を元に調査、研究を推進します。NEW



コワーキングスペースでは学生が  
市民のみならずとともに自主勉強会等を展開





## IV 国 際 化

国際交流センターを中心として、グローバル社会に対応し、海外への学生派遣、留学生交流や国際学術交流などを包括して行い、21世紀の国際社会が求める人材を戦略的に育成します。

### ■国際交流（国際交流センター担当）

- ・ 海外留学制度の拡充
- ・ 留学生受入れ
- ・ 交換留学等に係る協定締結

1 グローバル化対応ポリシーを策定し、戦略的な人材育成を推進します。NEW

2 海外への本学学生の派遣の拡充を図ります。

- (1) 海外の大学への留学制度の更なる充実を進めます。NEW
- (2) 海外の大学との協定校数の増加を図ります。
- (3) 海外からの留学生の受入数の増加を図ります。

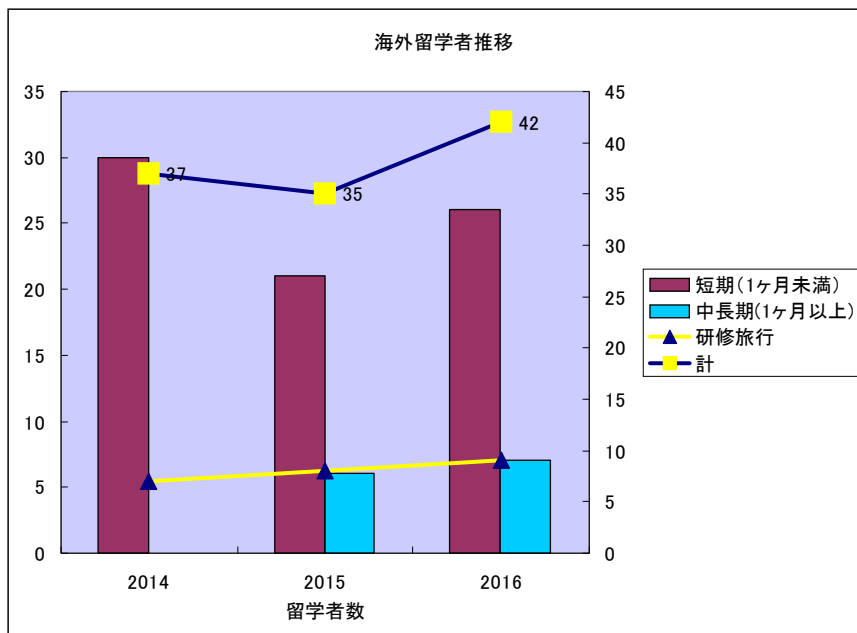
3 教育・研究のグローバル化を推進します。

- (1) 国際教養コースをはじめ、他の科目でも英語で行う授業を展開します。
- (2) 国際的学術研究を推進します。

4 キャリア開発センターと連携し、外国人留学生の就職支援を推進します。

NEW

5 大学院を含む外国人留学生を組織的に支援します。NEW



グローバルラウンジでの活動の様子

## V 運 営

学長のリーダーシップによるガバナンスと大学マネジメントの強化を図り、責任ある執行体制を充実させます。企画、実施、評価、改善のサイクルを明確にし、戦略的な大学運営を行います。

- 1 吉村プランの確実な推進に努めます。(大学戦略会議の開催、戦略推進室の機能充実)
- 2 学部入学者の定員確保、大学院の入学者増に努めます。
- 3 情報系分野の強化・充実をはかり、文理融合型の産業に貢献する大学を目指します。NEW
- 4 公益大まちなかサテライトの開設準備（例えば、夢・希望塾、イングリッシュ及びサイエンスカフェ、酒田おもてなし隊の拠点、各種セミナー、コワーキングとの連携ほか）について、大学戦略会議、コース長会議等で実施案を検討します。NEW
- 5 学部の再編について検討します。NEW
- 6 教育効果の点検・評価(学生の意見の反映、授業評価改革の自己点検評価等)のため、点検評価委員会を充実させ、不断の評価を推進します。
- 7 「教育・研究の質の確保」のため、教員評価等を充実させ、教員人事委員会への反映に努めます。
- 8 男女共同参画の環境整備を図ります。
- 9 入学から卒業まで、「教育の質保証」に対応するため、大学の教育・研究のデータ収集と分析を行う IR 組織と、AP(大学教育再生加速プログラム)を連動させ、PDCA サイクルの充実を推進します。

NEW

- 10 図書館の学生サービス向上に努めます。
- 11 公益大大学院修了生からの教員の採用に努めます。



図書館 1 階、自学自習コーナー





〒998-8580 山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1

電話 0234-41-1111 FAX 0234-41-1133

<http://www.koeki-u.ac.jp/>